

R元年度学校評価表

島根県立宍道高等学校

		評 価 計 画				自 己 評 価					学校関係者評価				
教育目標	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当 分掌	評価指標	目標値 [a] (昨年)	評価値 <定時> [a] (昨年度)	評価値 <通信> [b] (昨年度)	達成指数 [b/a] (昨年)	評価 (昨年)	結果と課題の記述	評価	コメント	次年度への 改善策	
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自らを理解し主体的に学ぶ意欲を育てる	学力の向上 一人一人の学びを実現し、主体的に学ぶ態度を養う。	わかる学習指導の実践 ○授業の大切さを理解させる ○少人数指導・授業の工夫および改善 ○単位修得率の向上	教務	全講座の平均出席率(定時)	85%	80.8%	—	80.8%	95.1	B	前期前半86.7%、前期後半79.3%、後期前半77.8%、後期中間試験以降12月まで77.9%。年間を通じて80.8%となり、昨年度を下回った。年度当初から長期欠席の生徒も多く、4月時点から昨年度より出席率は低かった。夏休み前後に、今年度はもう出ずに来年度より直すと早々に決断してしまう生徒や順調に出席していた生徒が不登校になったりもした。(友人関係・家庭・進路についての悩み、学習意欲の低下、昼夜逆転の生活などの理由)しかし、担任や教科担当の働きかけで、取れる単位だけは授業に出ようとしている生徒もいるので、粘り強く声かけをしていきたい。	A	・緊張感とやる気をもって入学した生徒、または進級する時は頑張ろうと思っていた生徒のことを考えると、年度初めの生徒への対応が大切。忙しい時期かと思うが、できるだけ生徒に接する時間が取れるとよい。(定時制) ・学力の低い生徒が多くなっていることは残念だが、引き続き分かりやすい授業の工夫に努めていただきたい。(定時制) ・定時制の平均出席率、単位を修得した生徒の割合などが前年に比べて低下している。一部の生徒について、家庭と連携して日常生活習慣を改善する必要があると思う。(定時制) ・町外からの通学者が多い中で「地域に関する学習」で68%は高い評価をしても良いのでは。(定・通共通)	【教務】 ・本年度も担任や教科担当の粘り強い声かけにより、取れる単位だけでもなんとか頑張って授業に出ようとしている生徒が見られた。中学校の時に不登校であった生徒が7割占める状況を見ると、評価指標を「単位を修得した生徒の割合」ではなく、「1単位以上単位を修得した生徒の割合」に改めてもいいのではないかとと思う。(定時制) ・年度当初、夏季休業前、前期期末試験後など生徒が欠席がちになる時期の声掛けの必要性を担任や教科担当に知らせる。(定時制) ・通信制は概ね順調に推移しているが、提出期限日を守ることができず、最終締切りギリギリレポートに取りかかり結局合格できずに単位を落とす生徒が少なからず存在する。担任からのこまめな声かけ、教務からの注意喚起を密にして、生徒が不注意によって単位を落とすことをできる限り減らしたい。そのことにより単位修得率をさらに高めていきたい。(通信制) ・授業公開開講については、次期学習指導要領の内容を盛り込んだ「ねらい」やICT機器のさらなる活用による授業改善を進めていきたい。(定・通共通)
					少人数指導が自分に合っていると感じている生徒の割合(定時)	90%	88.3%	—	88.3%	98.1	B				
					スクーリングやレポート添削の内容に満足している生徒の割合(通信)	90%	—	94.2%	94.2%	104.7	A				
					単位を修得した生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	85%	—	-0.2	-0.2	104.9	A				
					75%	—	77.2%	77.2%	102.9	A					
					70%	—	+1.9	+1.9	100.4	A					
					80%	82.5%	82.5%	103.1	A						
					80%	+9.2	+9.2	91.6	B						
					80%	87.2%	94.9%	91.1%	113.8	A					
					80%	-2.2	+2.5	+0.2	113.6	A					
					70%	68%	—	68.0%	97.1	B					
					70%	-3.7	—	-3.7	102.5	A					
進路の実現	社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。	個々の進路実現に重点を置いた支援 ○ハローワーク、ジョブカフェ等と連携しての就職支援 ○面接指導、作文、小論文などの個別指導の徹底 ○通信制卒業予定生の個別支援の充実	就職・進学など進路先を決定して卒業する生徒の割合(1月末)	就職・進学など進路先を決定して卒業する生徒の割合(3月末)	進路学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	80%	67%	69.9%	68.5%	85.6	B	1/31現在、卒業予定者148名(定45・通103)中、進路決定者は102名(定30・通72)である。内訳は、進学決定者が42名(定15・通27)で、就職決定者が40名(定14・通26)である。就職決定者の内訳は、新規採用決定者が24名(定14・通10)、既就職者が9名(定0・通9)、アルバイト継続者が7(定0・通7)である。またいわゆる卒業目的(専業主婦・進学浪人等)の者は20名(定1・通19)である。現段階での進路未決定者(進学・就職ともこれから受験を控えている者)は46名(定15・通31)であり、引き続き、進学・就職決定に向けて支援をしているところである。 進学・就職ともに、受験をした後、ハローワークに行ったりして実際に進路に向け活動している生徒については、進路実現に近づきつつあると考える。一方、進学・就職いずれにせよ、様々な理由で現在活動ができていない生徒も多く、そういった生徒への具体的な声かけや支援のあり方が課題である。 年度末(3/28)での進路状況は、卒業生145名(定44・通101)中、進路決定者は142名(定44・通98)である。内訳は、進学決定者が51名(定18・通33)で、就職決定者が51名(定19・通32)である。就職決定者の内訳は、新規採用決定者が34名(定18・通16)、既就職者が9名(定0・通9)、アルバイト継続者が8(定1・通7)である。またその他(専業主婦・進学浪人・卒業目的等)の者は40名(定7・通33)である。3/28現在、進路未決定者は3名(定0・通3)であり、1名は3/30に専門学校受験予定、もう1名は3/31に就職試験受験予定、残りの1名が就職活動中である。 比較的良い評価が得られているのは、様々な学習歴・生業歴を持つ生徒に対して、1年次より段階的に組まれている「CCP」による進路学習が効果を発揮し、自分の役に立っていると感じている生徒が多いからだと思われる。また、通信制の生徒における評価値が高いのは、担任からの個々に対する進路指導とともに、進路部で行う就職・進学別の進路講座や模試受験等が、進路を考えるよい刺激となり役に立っていると感じている生徒が多いのだと思われる。 継続的な課題として、定時制生徒の1年次は自己理解や自己肯定感を高めるような仕掛けを増やし、2年次以降はできるだけ早く進路目標を持たせた上で、実際に進路実現に向けて自ら行動させるような指導が一層必要である。 3日間のインターンシップ、外部講師講話、卒業生(進学者・就職者)を招いての講話と座談会、企業見学等の進路行事が生徒へよい成長刺激となっていると考える。各行事実施後に書かせる生徒の感想文にも前向きな意見が多く、好意的に受け止められているようだ。但し、一部の生徒にはこれらの行事が自らの進路設計に直接役立っているとは言えず、まずはキャリア教育を自分事として考えさせるとともに、具体的には、インターンシップの企業選択や実施後の発表会のあり方など、より工夫を図ってきたい。	A	・進路決定できなくとも、将来への希望を持てる指導と焦る必要がないことなど、人としての基本的なやさしさが自らの道を開くと思う。地域の方や先輩と1対1で話し合う「しゃべり場」的なキャリア教育も良いと思う。 ・進学したり、社会に出てから再び不登校や出社できなくなってしまうぬらぬら、焦らずにじっくりと自分に合った方法で支援していくとの姿勢に感心した。 ・前年に比べて数値が低下しているが、おおむね良い評価となっている。 ・就職を希望した人には学校の成績・学歴より重要な項目が有る事を指導していただき、生徒に勇気希望を持たせて欲しい。	
						—	—	—	—	—	—				
						90%	100%	97.0%	98.5%	109.4	A				
						90%	0.0	-0.8	-0.4	109.9	A				
						80%	86.1%	94.7%	90.4%	113.0	A				
						80%	-1.3	+2.4	+0.5	112.3	A				
						85%	85.3%	93.9%	89.6%	105.4	A				
						85%	-2.0	-0.4	-1.2	106.9	A				
						80%	77.3%	93.4%	85.4%	106.7	A				
						80%	-7.6	-0.7	-4.2	111.9	A				



